

正 信 念 仏 偈 18

■龍樹讚①

釈迦如来楞伽山
為衆告命南天竺
龍樹大士出於世
悉能摧破有無見
宣説大乘無上法
証歡喜地生安樂

釈迦如来、楞伽山にして、
衆のために告命したまはく、南天竺（南印度）に
龍樹大士世に出でて、
ことごとくよく有無の見を摧破せん。
大乘無上の法を宣説し、
歡喜地を証して安樂に生ぜん。

現代語訳

釈尊は楞伽山で大衆に、「南インドに龍樹菩薩が現れて、有無の邪見をすべて打ち破り、尊い大乘の法を説き、歡喜地の位に至って、阿弥陀仏の浄土に往生するだろう」と仰せになった。

~~~~~



☆龍樹菩薩（西暦150～250年頃）

南インドに生まれる。生涯を知る資料はほとんどない。鳩摩羅什訳と伝わる『龍樹菩薩伝』も誇張伝説が多い。初期大乘經典の『般若経』に説く智慧の世界を空思想や縁起思想によって解明した。中国・日本では「八宗の祖師」\*1と仰がれる。七高僧の第1祖とされ「龍樹菩薩」、「龍樹大士」と尊称される。浄土真宗において重要な聖教は、『十住毘婆沙論』『易行品』、『十二礼』。

○釈尊の懸記

われらの内証智は妄覺の境界にあらず。如来滅世の後、護持してわがために説き、如来滅度の後、未来まさに人あるべし。大慧よ。汝あきらかに聴け。人あり。わが法を持せん。南大国の中に大徳の比丘あり。龍樹菩薩と名づく。よく有無の見を破して人のために、わが法大乘無上の法を説き、歡喜地を証得して安樂國に往生せん。（『入楞伽経』）

\*1 八宗とは、平安時代までに日本に伝わった仏教の八つの宗派。俱舍・成実・律・法相・三論・華嚴の南都六宗に、天台・真言を加えたものであるが、転じてすべての仏教宗派の意となった。龍樹を「八宗の祖師」と言う時は、龍樹が大乘仏教のすべての宗派の祖師という意味。

『高僧和讃』

南天竺に比丘あらん 龍樹菩薩となづくべし  
有無の邪見を破すべしと 世尊はかねてときたまふ

**有無の見**

有見と無見のことで、ともに誤ったものの見方であるから邪見ともいう。

有見…世間および、我の常有を執する見解

無見…世間および、我の断無を執する見解

『雑阿含経』

もし先來より我あらばすなはちこれ常見なり。今において断滅せばすなはちこれ断見なり。如来は二邊を離れて中に処して説法す。

有見（常見）と無見（断見）とは、いずれも誤った見解であると否定されたのが龍樹菩薩。あらゆるものには実体（自性）がない → **空思想**

※空の原語は梵語「シューニャ」で、「～を欠いている」

法然聖人御法語

聖道門の修行は、智慧をきわめて生死をはなれ、浄土門の修行は、愚痴にかえりて極樂にうまるとするべし。

『親鸞聖人御消息』

故法然聖人は、「浄土宗の人は愚者になりて往生す」と候ひしことを、たしかにうけたまはり候ひしうへに、ものもおぼえぬあさましきひとびとのまゐりたるを御覧じては「往生必定すべし」とて、笑ませたまひしをみまゐらせ候ひき。

「大乘」とは

大きな乗り物の意。小乗に対する。自利よりも広く衆生を救済するための利他を實踐し、それによって仏となることを主張するところに特徴がある。

※ここで「大乘無上法」とは、阿彌陀仏の第十八願を指す。

「歡喜地」とは

不退轉地のこと。仏道修行に対して後戻りしない位を「不退轉地」という。

『教行信証』 「行巻」

眞實の行信を獲得すれば、心に歡喜多きが故に、これを歡喜地と名づく。